

<出席委員会>

安藤志子委員長

	会員	出席	欠席	マーク	出席率
第1689回	39	34	5		87.18%
第1688回	39	31	8	2	84.62%

<ロータリー財団>

野島委員長

ベネファクターをいただきました。

小塚会長→「市川ガバナーの来会を記念して」。

中村幹事→「ガバナー公式訪問を記念して」。

以下、ロータリー財団です。

井上勇会員→「入会13年目に入りました。これからもよろしくお祈りします」。菅会員→「なかなか奉仕活動に参加できず申し訳ございません。医療・介護の面で地域に貢献したいと思います」。野島会員→「ガバナーようこそ。片寄補佐、ご苦労様です」。

<職業奉仕委員会>

北島委員長

職業訪問を10/8に予定通り実施いたします。今年度は、東証アローズを訪問し、都内観光をいたします。今年度から参加が、会員・ビジター共に1人5,000円となっております。来週以降徴収いたしますので、よろしくお祈りいたします。

<ニコニコ・財団・米山委員会>

	今回		累計	
ニコニコ	32件	45,000円	268件	307,827円
財団	3件	36,000円	17件	202,000円
ベネファクター	2件	200,000円	2件	200,000円
米山	0件	0円	8件	115,000円

本日のプログラム

先に片寄ガバナー補佐より市川ガバナーの略歴のご紹介がありました。

<ガバナー公式訪問卓話>

第2590地区市川緋佐磨ガバナー

皆さんこんにちは。本年度第2590地区ガバナーを務めさせていただきます、市川緋佐磨と申します。私の家は江戸時代の初めから、代々稲毛神社の神主をしております。本日は皆さんの前で、ガバナー卓話ということで、国際ロータリーが今どんなことを考え、どんな活動をしているのかをお話させていただきます。今年一年この第2590地区をお預かりする

ことになりましたが、大勢の方のご協力を頂いて過ぎてまいりました。このクラブからは安藤さんに国際奉仕委員としていろいろご活躍を頂いております。片寄補佐からの報告で、百合丘RCがとても魅力的で華やかで楽しいクラブであると聞いておりました。とても楽しみにして伺いました。

■年次大会報告

前年度の最大行事である年次大会の様子を写真で紹介しません。年次総会はポルトガルのリスボンで行われました。町には有名・無名様々なモデルを起用したポリオ撲滅のポスター



や、ロータリーマークの入った石碑があちこちにありました。昨年のガバナーは田中作治さんで、大会のクライマックスの各国入場では、最後が日本の国旗でした。君が代に日本国旗が入場してくる荘重な様子は、大変気持ちの良いものでした。

■2013-14 RIテーマ

本年度のテーマは、「ロータリーを实践し、みんなに豊かな人生を」です。これはガバナーであるロンD.バートンの『Engage Rotary, Change Lives』の日本語訳です。「ロータリーを实践すれば、周りの人が豊かになれる、何よりあなた自身が豊かに幸せになれる」というロンD.バートンのメッセージを元



に訳されたものですが、Changeのニュアンスが失われているのが、少し残念な気がします。

■ロータリー小史

1990年代には科学技術の発達による高度で複雑な社会、変化の激しい社会の到来がございまして、新しい問題として環境破壊、生態系破壊、が出てまいりました。しかし、従来からの人権、貧困、紛争等々の問題も解決されずに残ってまいりました。その中で、ロータリーは何をしたらよいか？どうしたらよい働きが出来るか？が真剣に討議されるようになりました。その中で新興国、特にインドで急激に会員数が拡大しました。逆に、先進国では会員の減少が始まるという大変奇妙なことが起こりました。インドで

は1年に200ほどのクラブができ、翌年には100くらいが消滅、そのまた次の年には50が復活といったことが生じました。事務に当たった本部では様々な書類が多量になり600人の人件費がかかったということになりました。何とかしようという事で、2005年のロータリー100周年、2017年のロータリー財団100周年の間でなんとか片付けることがロータリーに課せられた議題でした。そこでRIでは「戦略計画委員会」をつくり、時代の変化に適応した魅力的クラブ、効果的活動とはどういうものかを考えました。そこで世界を相手にした大掛かりなプランを考えていただいた中で、提案されたのが「地区リーダーシッププラン(DLP)」と「クラブ・リーダーシッププラン(CLP)」でした。これは 地区・クラブの組織と運営を簡素化、機能化、活性化するための改革でございました。中でも戦略計画委員会が提言した最新の戦略計画です。

■戦略計画

ロータリーの目標

- ・クラブのサポートと強化
- ・人道的奉仕の重点化と増加
- ・公共イメージと認知度の向上

ロータリーの本質・定義

地域の人々の生活を改善したいという情熱を社会に役立つ活動に注いでいる、献身的な人々の世界的ネットワーク

5つの中核的価値観

「奉仕・親睦・多様性・高潔性・リーダーシップ」この5つの価値観についてはセミナーでしばしば出てきております。このような中で、今年度の地区方針を決めさせていただきました。

■地区方針1 「未来の夢計画」を成功させよう

R財団の新しい補助金制度(=未来の夢計画)を理解し、みんなで新しい時代の奉仕に取り組もう。この新しい補助金制度については、昨日セミナーがございましたのでみなさまのご理解が進んでいると思います。準備が整いましたら、是非この補助金支給制度に則った事業を実施していただければと思います。

■地区方針2 「会員増強」

各クラブで増強ノートを作り、それを活用しながら会員全員で増強を頑張ることをお願いしております。「理論を述べる場ではない、ロータリーを実践する場である。ガバナーとして自国へ戻ったら、具体的な目標を示して、具体的な行動計画をもってお願いしなさい」とバートン会長に言われてまいりました。

そこで具体的な目標として「純増1名」具体的な行動計画として「増強ノートをつくろう」ということをお願いしております。

■地区方針3 「公共イメージと認知度の向上」

「取材依頼書」「メディア住所録」「掲載紙スクラップブック」各クラブで備えることをお願いします。「ロータリーは多くの幸せを築いてきた。その実績は素晴らしいものはず」にもかかわらずアンケートによるとほとんど知られていない、「これではやってきた意味がないのではないか」ということで10年ほど前から盛んに言われるようになりました。

■地区方針4 「ポリオ撲滅」

ポリオは、今、国際ロータリーが第1に片付けなければならない問題としてあります。当地区でも今年と来年度に10万ドルづつ、寄付をすることになっております。ご迷惑ではございますが、お一人50ドル(約5,000円)を11月中によろしくお願いいたします。ロータリーは寄付がなければ活動できない、とバートン会長も盛んにおっしゃっています。

■地区方針5 新訳「ロータリーの目的」

古くロータリーの綱領といわれたものです。ロータリーの友1月号に大変詳しい解説が掲載されています。ぜひご一読いただき、ロータリーの歴史や変遷を辿っていただきたいです。

■地区方針6 「クラブ戦略計画」

RIの戦略委員会は、これまでもこれからも大変大きな働きをしていくのだと思います。それを見習って各クラブで戦略計画委員会を立ち上げて「みんなで5年先のクラブの理想像を思い描き、今、何をすべきか考えよう」というのがこの計画です。



■地区方針7 「研修の充実」

研修の充実も古くから言われていることであります。ロータリーはたくさんの会合が行われますが、それらを一度見直していただいて、諸会合を少しでも「魅力的、効果的に行えないか」を考え、新しい要素を、例えばクイズやレクレーション的な組み入れて楽しい研修会を行いましょう。

■地区方針8 「ロータリー財団」

例年通りのお願いです。「年次寄付目標は、1人当たり120ドル以上」「ベネファクターは、各クラブ2人以上」をよろしくお願いいたします。

■地区方針9 「ロータリー米山記念奨学事業」

例年と同額です。「普通寄付は1人 5,000円以上」「特別寄付は1人20,000円以上」「合計1人25,000円以上」をお願いします。ただ今、当地区は一人当たり寄付額が日本一を18年ほど継続中です。

■地区方針10 「東日本大震災復興支援活動」

各クラブで大変有意義な活動をしていただいておりますが、引続きよろしくをお願いいたします。地区として社会奉仕委員会が担当しています。

さて、今様々なことを申し上げましたが、その中には先輩から教わった「1業種1名」や「例会重視」等の価値観が一つも出てまいりませんでした。

「1業種1名(その業種の代表者)」の元、道徳律・倫理観などといわれ「高潔性」という価値観に。「例会重視、出席義務」は「奉仕事業重視」へ。「単年度制」は「継続事業」「全体事業」のほうが重要。「陰徳」は今では「認知度向上」「公共イメージの高揚」。このように大部価値観が変わってきております。

■RI理事メッセージ

『RI理事として参加した規程審議会にて』の中で2012-14年度RI理事 松宮剛さんがおっしゃっています。「例会の回数を少なくしようとする提案が否決された。ただし次回が同じかどうかは予断を許されません。(RIの)理事会の基本的な姿勢は、RIの戦略計画を強く推進していこうとするものです。会員増強クラブ拡大はさらに拍車がかかるでしょう。例会出席よりも奉仕活動重視のロータリーのありようもさらに強調されていくものと思います。公共イメージの統一を目指してブランディングに関する議論も活発になるでしょう。私たちは、ロータリークラブは地域社会とともにあるという感覚と行動を再

認識することによって、RIの方向性との協調を図ることが特に重要であるように思います。そのうえで、職業人としての成熟とそれに伴う誇りを獲得することの大切さは、ロータリーにあっては揺らぐことのない核心であり続けるでしょう。私たちは、ロータリークラブは地域社会とともにあるという感覚と行動を再認識することによって、RIの方向性との協調を図ることが特に重要であるように思います。そのうえで、職業人としての成熟とそれに伴う誇りを獲得することの大切さは、ロータリーにあっては揺らぐことのない核心であり続けるでしょう。」つまり、RIとは方向性がだいぶ違ってしまったので、協調性を図らなければいけませんね、でも、職業奉仕の大切さを忘れてはけませんよ、とおっしゃっているのです。これをまとめますと、「世界のロータリーの潮流は、例会よりも奉仕活動(大規模で継続的、国際的な奉仕事業)に傾いている。それによってロータリーの名を挙げ、ロータリアンのステータスを高めようとしている。しかし我々は、規模は小さくても身近な地域社会への奉仕活動に力を尽くし、職業奉仕の精神を忘れずにロータリー活動を進め、以て会員の増強、クラブの拡大発展を図って行きたい。」となります。いずれにしてもロータリーは変革の時期に来ておまして、日本のロータリーはこの変革から目をそむけているのではないかと思います。当クラブのような中核的なクラブに中核的な皆さんが、何かの折に国際ロータリーの変革と自分達の理想像をどうマッチさせたらよいのかを考えていただきロータリーの発展を考えていただきたいと思います。

